

平成28年度 第4回五泉市総合計画審議会 議事要約

日 時：平成29年1月16日（月）14：00～16：00

場 所：福祉会館 3階 大会議室

出席者：委員20名

欠席者：佐藤渉委員、梅田恒栄委員、山田宏之委員、川瀬和博委員、
松尾タカ子委員、金子義伸委員、山田宜永委員（委員7名）
飯平喜文アドバイザー

1. 開会（事務局）

第4回五泉市総合計画審議会を開会する。

委員27名中、20名の出席を得ており、審議会が成立する。

2. あいさつ

樋口滋会長より開会のあいさつをいただいた。

3. 本日の説明

- ・本日の審議テーマ、進め方について説明を行った。

4. 議事

議事（1）審議 ①前期基本計画について（テーマ⑨～⑪）

審議方式は次のとおり

- ・テーマに含まれる施策の概要を事務局より説明。
- ・テーマに含まれる施策の原案を委員より再度確認。
- ・委員よりテーマに関する意見等をいただく。

[意見・質疑応答]

■テーマ⑨：活力ある商工業を育むまちづくり [施策 No. 29～30]

●阿部律雄委員

総合計画は今後 10 年の計画ということであるが、商工会の立場として、商業全般的に大変厳しい現状である。売上や資金繰りなど明日の自分の商売をどうしようかと言っている状況で、これから 10 年、20 年先、商売として成立するのかという、根の部分が自分たちの本当の課題である。商工会では国の地域活性化に対する補助金を活用してポータルサイトを立ち上げたが、まずはこういった出口のものを整備していかないと、これからの五泉市の有り様は難しいところに来ていると危惧している。商工会では会員や収入が減り、商工会そのものも存続の危機となっている。その辺を何とか立て直していかないと地域の商工業は成り立っていかないので、市からの支援をお願いしたい。

●事務局

市としても総合計画を基本として、人材育成や財政支援などを考えながら、地元商店街や商工業のために施策を展開していきたい。

●横野恒明委員

織物組合も厳しい状況は変わらない。織物組合としては、五泉には織物工場と精練所（加工工場）がセットであり、五泉の織物の強みと思っている。どちらも厳しいので支援をお願いしたい。また、織物と他の産業との連携についても支援をお願いしたい。そして、複合施設について、織物やニットなどの市の産業を PR できるように考えてもらいたい。

●目黒章次委員

空き家がどこでも大きな問題となっているが、高齢者や子育て支援、地域のコミュニケーションなどいろいろな面から空き家を活かした政策がとれば、また商工業に新たな見通しが出てくると思う。

●事務局

空き家に関しては 2 年程前に調査をし、800 件以上の空き家を確認した。空き家対策には、危険空き家に対する取り組みと、空き家の利活用という 2 つの面があると思う。今の意見は空き家の利活用に対する意見だと思うが、商店街にも空き店舗があるので、空き店舗を利用した起業支援など、それらの利活用については総合計画の中でも考えていきたい。

●本間寛和委員

空き家・空き店舗を活用した起業・創業支援について、現在行っているのか。

●事務局

空き店舗を利用して新しく起業する場合、店舗の改修費用や家賃の借上げ費の一部を支援する制度を設けている。

■テーマ⑩：魅力ある農林業を育むまちづくり [施策 No. 31～34]

●阿部良夫委員

チューリップ祭りやボタン祭りなどは 25～30 年くらい過ぎているが、変わり映えがなく、来客も頭打ちで少なくなっている。農業・商業・観光を含めてオール五泉として伸びて

いくためには、原点に戻るとか、中身を変えていかないと発展して行かないと思っている。幸い、東公園のぼたん園のわきにシャクヤク園を増設しているので、新たな観光の目玉になると思っている。

私の本業は米作であるが、農業の担い手は本当に少ない。本当に高齢化してきて、その先5年もすると相当農地が動く状態になる。国は法人化を進めているが、農家での話し合いで法人化するのは難しい。集落に1つくらいの生産法人ができないと、将来的に農地は耕作放棄地、遊休地になる可能性が非常に高いので、J Aと行政と一緒に考えていかないと大変な状況になる。

また、次世代の若い人が農業をやるには基盤整備をしないと、作業効率的な面で不利益が生じるので、行政やJ Aを含めて基盤整備を行い、次世代の農家が農業をやりやすい形にしていければと思う。

●武藤ノリ子委員

農業に関して、本当に高齢化が進んでいる。後継者が必要であるが、農業だけでは食べていけないので、仕事を辞めて専業農家にはなれないのが現状である。

●阿部律雄委員

事業継承は全分野に言えると思う。商工会でアンケートをとっているが、現実是非常に厳しく、63%が後継者がいなくて、この先どうするのかという状況である。ここをクリアしないと地方の活性化は有りえないと思っている。それには国・県・市が一体となって、この地域経済をどうするのか、どうしたら当地に住んでもらえるのかを考える必要がある。魅力がない、つまりは生活ができないという現実がある。これは全分野にいえることで、日本全国の地方においては避けては通れない一番の問題である。行政で施策を打って、活性化につなげてもらいたい。

●松尾幸一委員

事態は本当に深刻だと思う。施策のとおり実行すれば発展しそうであるが、現状はそのようにはいかない。例えば、五泉市は四華があるが、素晴らしい財産が有りながら、頭打ちになっている状況である。ここを分析しないと広がりが無い。どの事業もインパクトが弱いのので、もっと掘り下げて、資源を活かせる対策をとるべきである。「五泉四華」は本当に素晴らしい文句だと思うので、そこをもっと活かしていくべきだと思う。今あるものをどう生かして次につなげていくかということを考えていかなければならないと思う。

●阿部周夫委員

確認であるが、施策No.34「森林資源の利活用と保全」について、今年の議会でC L Tについて施政方針でうたっていた記憶がある。ここに記載が見当たらないが、C L Tの活用支援については、今年度で終了ということなのか。

●事務局

C L Tについては、昨年策定した総合戦略において、28年度から取り組みを開始している。担当は農林課であるが、今のところは調査研究や先進地視察を予定している。単年度だけの取り組みではなく、目標としてはC L T製造工場を市内に誘致できれば良いと思っているが、その前段階でC L Tを市民へ周知するためにモデル的な施設を作る計画を考えている。29年度以降も順次取り組んでいくとしているが、C L Tについては施策No.36「雇用創出と環境整

備」の企業誘致における取り組みの一つとして考えており、総合計画では直接触れていない。

●阿部周夫委員

施策No.36「雇用創出と環境整備」に明記されているのか。

●事務局

総合計画では文言としてCLTは載っていないが、施策No.36「雇用創出と環境整備」における具体的な事業の一つとして考えている。

■テーマ⑩：地域の魅力を活かし高めるまちづくり【施策 No. 35～37】

●林聡明委員

私自身、咲花温泉で温泉旅館をしているが、観光と温泉旅館は必ずしもつながるものではないと思っている。観光ルートを考えるときには、必ず咲花温泉につながるような話になりがちであるが、観光地と宿泊地は必ずしも近くはない。もう少し広い、例えば宿泊施設のある温泉地だったり、新潟市のホテルなどと結びついて行った方が、今後のためには良いと思っている。施策No.35「地域資源を活かした観光と都市交流」の今後の取り組み 35-②「魅力的なイベント・観光ルートの創出」に「広域的な視点」とあるが、それは非常に合致していると思う。

●尾坂勝委員

観光協会として、現状を報告したい。3月から花シリーズが始まるが、花を見た後、私どももどこに行けばいいという案内が難しい状況である。例えば、商店街でイベントを組んだり、織物やニットの工場見学など、花シリーズの後に五泉の街中を歩いてもらえるような体制づくりをお願いしたい。

98 ページの 35-①「観光客を受け入れる体制の強化」に「まち歩きガイドブックの作成」とあるが、村松は城下町で寺などが密集しており大変観光案内がしやすいが、五泉はどこを歩けばよいかわからない。例えば、JRと提携している「五泉の駅からハイキング」でもチューリップ畑まで歩いてみた後、帰りはどこに行けばいいのかと苦慮している。栗島公園や八幡様があるが、そこに何かあるのかということになると、弱いところがある。1～2時間歩けるようなコースを作っていきたいが、大変苦慮しているところである。

35-②「魅力的なイベント・観光ルートの創出」について、チューリップは外国人観光客が多いが、ぼたんはなかなか来ない。観光協会としては阿賀野川ライン観光協会といろいろ手を組んで、阿賀町・阿賀野市・秋葉区の中で観光ルートづくりを行っている。2月にはイベントを行うが、昨年は700人ほど来場した。何かアクションを起こしていかないと、皆さんから来ていただけないと思っている。

35-③「交流人口の拡大と地域経済の活性化」について、五泉応援団や首都圏でイベントを行っているが、なかなか市の観光に結び付かない状況である。首都圏の女性を対象にツアーを開催しており、低価格で設定しているのに、20人くらいしか受け入れることができないが、大変好評を得ている。

35-④「誘客宣伝の強化」について、ホームページやSNSを立ち上げたり、観光大使である写真家の鎌形先生を中心に写真コンテストを行っている。また、五泉高校では企業や商店街を回ってもらって、スマートフォンのアプリに載せてもらう取り組みをしている。また、2

月 10 日の「ニットの日」には、ニット販売の他にニット工場見学などの取り組みを行っている。

先ほどの商業関係について、商店街で空き店舗を活用してもらいたい。新潟市の沼垂地区でも商店街の空き店舗を若い人から利用してもらったり、青森でも観光会館を安い家賃で貸し出し、軌道にのったら商店街で営業を始めてもらうという取り組みもあるので、参考にしてもらいたい。花シリーズの際には、商店街、商工業者が一緒になって、皆さんを取り込んでいくような取り組みをお願いしたい。

●松尾幸一委員

97 ページの図「年度別観光客数」について、年度ごとに観光客数の変動があるが、原因は分析しているのか。

●事務局

花シリーズは屋外のイベントになるため、天候に左右されることが一番の原因である。イベント日に晴れていれば入客があるが、悪天候だとそれだけ減るので、年によってばらつきがある。26 年度と 27 年度を比較すると、花シリーズの入客数が一番影響している。その他市内観光地はそれほど変わらないが、花シリーズでの 5 万人の減少が全体に影響している。

●尾坂勝委員

補足であるが、98 ページの 35-⑤「歴史・文化・産業の観光資源化の促進」に「五泉の新ブランドとして桜を利用したアロマ商品の開発」とあるが、五泉の八重桜の香りをとることに成功し、これから観光資源の一つとして市と観光協会で行っている。香りによってガンやストレスに効果があるということで、商品化を進めている。このアロマをお菓子などいろいろなものに使って、五泉の名物にしてもらいたいと考えている。桜アロマのサンプルを作っており、4 月から販売になると思う。一つの起爆剤として、アロマを使ったいろいろな加工品を作り、五泉の PR に努めていきたいと考えている。

●阿部良夫委員

農業改革の話であるが、施策 No.36「雇用創出と環境整備」の 36-④「起業誘致と起業・創業支援の推進」について、今ブランド品としてさといもを作っているが、高齢化しており、将来的に作付面積の増加は難しいと考えている。面積が減っても、それだけの農業産出を出すためには加工場しか方法はないといろいろな方面で話をしている。しかし、実際誰が先頭になるのか難しい。地方創生という中で、農村地域工業等導入促進法の改正によって起業誘致がしやすくなっているので、さといもやれんこん、栗など、地元の特産品の加工場を作り、付加価値を付けるといった、6 次産業化を進めてもらえるよう検討をお願いしたい。

議事（１）審議 ②基本構想について

審議方式は次のとおり

- ・17の政策について、6つの基本方針ごとに委員より意見をいただく。

[意見・質疑応答]

1) いきいきの泉 ～笑顔あふれるいきいきのまち～

●剣持雄吾委員

子どもが元気なまちづくりが必要だと思っている。生涯学習の中で、「子どもから高齢者まで」という文言が入っているが、市民が元気でるまちづくりが必要だと思っている。文言的にも網羅されていると思う。

●本間寛和委員

市内の各学校では、「知・徳・体」を教育の目標として掲げ、教師、児童・生徒が一丸となって学習をしている。その中で、全体としては「社会においてたくましく生きていく力」ということで網羅していると思う。五泉市の学習環境はかなり整ってきてはいるが、インターネットやいじめ問題など、今の時代的な課題も出てきている。そのようなことも含め、これから10年後に重要視される課題について組み入れる余地があれば入れることも方法かと思う。

●帆苅達郎委員

体育協会では、年に2回、小学生を対象にスポーツフェスタと称したスポーツ体験を実施している。ほとんどスポーツをしていない人が集まるが、体験することによって入会する人もいる。子どもだけでなく、保護者も含めて活動をしている。基本構想では、子どもから高齢者まで市民が気軽にスポーツを楽しんでもらいたいということなので、大変良いと思う。

●佐久間淳介委員

五泉では全国的に寺子屋が有名である。教育に関しては社会教育と学校教育があるが、寺子屋はどの部分に入っているのか見えない。

●事務局

寺子屋については、基本計画33ページの施策No.3「生涯学習の充実」に位置付けている。

●佐久間淳介委員

学校教育に関係しているが、実は学校教育法には入っておらず、生涯学習に入れてあるということが基本構想から読み取ることができない。見て分かるようにしてもらいたい。

●事務局

寺子屋については、(2)「ともに学び生きがいをもてるまちづくり」の中の取り組みとして整理をしているので、直接的に寺子屋という文言は出てきていない。

●佐久間淳介委員

それは分かるが、それが想像されるような文言が入っても良いと思う。

●事務局

ご意見を参考に、検討していきたい。

2) 安心の泉 ～信頼あふれる安心のまち～

●阿部良夫委員

学校給食について、将来的に子どもの数は少なくなるが、このまちの宝は子どもたちであるので、学校給食を将来的に無償化できればいいと考えている。また、今の保護者や先生には若い世代が増えてきているので、我々と違った考え方が必要になってくると思う。

●豊島恭子委員

新潟県では待機児童はいないということであるし、五泉でもだんだんと育休明けの0歳児保育の受け入れも出来るようになってきており、良くなってきているという実感がある。「目指します」という言葉で良いのではないかと思う。

●鈴木千鶴子委員

(4)「安心して子育てができるまちづくり」について、「親だけではなく子育てに関わる全ての人」や、「援助を必要としている子どもや家庭」という表現が、子どもをみんなで育てていくという感じがして、良いのではないかと思う。

●伊藤能徳副会長

医療の問題と人口減少問題が、五泉市にとって緊急の課題だと思っている。基本計画や実施計画において、年次ごとに十分検証し、経済状況や社会状況の変化に対応してもらいたい。

(5)「健康で安心して暮らせるまちづくり」について、「誰もがいつでも身近な場所において、安心して質の高い医療を受けることができるまちを目指します」とあるが、緊急医療体制の構築に努めるということを加えて欲しい。

●樋口滋会長

先回の審議会において、医療の問題に対する金子委員からの意見でなるほどと思ったことが2点ある。市民の半分が新潟市で診療を受けているということと、阿賀町と金子委員が連携して診療を行っているということである。これはやはり県との関わりということであると思うが、この辺も五泉市の課題であると思う。

3) ふれあいの泉 ～交流あふれるふれあい豊かなまち～

●阿部周夫委員

(10)「多様な文化にふれあれるまちづくり」について、漠然としすぎている。外国籍市民も暮らしやすいまちづくりを目指すことは非常にいいことだと思うが、もっと国際交流を育むようなまちづくりをメインにした方が良いと思う。

●事務局

五泉に住む市民が国際交流ということで海外に目を向けていくことと、市内にいる外国籍市民が同じまちの中で共に暮らしていくという2つの面があると思う。市としては両方を表現したかったが、ご指摘の通り、不十分な面があれば改めていくよう検討したい。

●尾坂勝委員

(8)「青少年を地域ぐるみで育むまちづくり」について、文言は素晴らしいが、ただ地域問わず子どもたちが交流できるような取り組みを入れてもらいたい。また、町内会との連携の中で、町内会自体が地域に何人子どもがいるか分からない現状があるので、その辺の交流も入れ、地域ぐるみで子どもを育てていくことでお願いしたい。ここにいじめ問題が入って

いいのかわからないが、何か別の文言などで表現をお願いしたい。

●事務局

いじめ問題を入れるにしても、ふれあいの泉がいいのか、いきいきの泉がいいのかということもあるので、検討したい。

●目黒章次委員

(9)「地域で支える福祉のまちづくり」について、言葉は良いが、全体的に五泉の特色を生かした言葉や具体性がもう少し欲しいと思う。地域ぐるみの福祉ということで、助け合いやコミュニティなどいろいろあるが、地域で福祉を大切にするには、きっかけや気運が必要なので、もう一つインパクトが欲しいと思う。

4) 活気の泉 ～賑わいあふれる活気あるまち～

●阿部律雄委員

(11)「活力ある商工業を育むまちづくり」について、今後10年間の総合計画なので文言に落とすとこのような形になると思うが、商工業の活性化は当地の一番の根の部分なので、何かもう少しインパクトが欲しいと感じる。もっと、もう一步踏み込んで、市民が地域の商工業の活性化を感じることができる文言を取り入れてもらいたい。

●阿部良夫委員

(12)「魅力ある農林業を育むまちづくり」について、「後継者の確保・育成と複合営農などにより、農業経営が安定したまちを目指します」とあるが、この中に「ブランド力強化」と「情報発信」について入れたらどうか。最近、ふるさと納税が盛んであるが、五泉市ではどのくらいあるのか。

●事務局

27年度の実績は、約1億3000万円であった。今年度は、今現在で1億1000万円くらいとなっている。

●阿部良夫委員

れんこん、さといも、米など、このまちには優れた特産物があるので、情報発信を強化して、ふるさと納税で市が潤うと良いと思う。

5) 快適の泉 ～潤いあふれる快適なまち～

●林聡明委員

市民が安心して、便利に暮らせるまちづくりを計画して進めてもらいたい。他の施策もそうだが、計画から実行する段階に落とし込んだ時に、もう少し市民一人ひとりの心に訴えかけるような、動きが目に見えるような文言を望んでいる。

●松尾幸一委員

文言としては非常によくできているが、何かもう一つインパクトがない感じがする。

●山崎洋子委員

文章としてはその通りだと思う。他の委員の意見もわかるが、分かりやすい方が一番良いと思う。

6) 基本構想・基本計画の実現のために ～市民協働と信頼による自立したまち～

●渡邊敏文委員

まちづくりや政策において、基本的な部分がやはり市民協働だと考えるが、文言としてよくできていると思う。構想ということで具体的なものは難しいと思うが、具体的に市と市民がどんな部分で協働していくのかというあたりが少し入ると良い。人権や個人情報の取り扱い、情報の共有についても、市民生活をするにあたって基本的な部分だと思うので、大事に基本的な部分として進めてもらいたい。

7) その他

●渡部久子委員

今の話題ではないが、一人暮らし世帯の屋根の雪おろしについて。何人かから相談されたが、民生委員としてはどうすることもできないので、市に相談したら市からは業者の名前は出せないで建設業組合に相談するように言われた。どうすればよいかわからないので、今回は建設業組合に相談したが、できれば除雪業者の一覧表が民生委員にもあればよい。

9. その他

○パブリックコメントの結果、答申（案）について、事務局より説明を行った。

○次回のスケジュールについて

- ・第5回審議会について平成29年1月26日（木）午後2時から開催することを確認。

10. 閉会

以上